

感染症委員会報告

感染症委員会 委員長 渡邊 徹

感染症委員会は令和2年2月10日に以下の出席者を得て第10回委員会が開催された。

担当副会長 元木 貢

技術委員長 谷川 力

顧問 安居院先生

感染症委員長 渡邊 徹(株中央社)

副委員長 富岡 稔(株銀座化成)

委員 石塚 裕一(株ヨシダ消毒)

佐々木 健(アベックス産業(株))

本内 新(株シーアイシー衛生営業所)

森 義行(株三共消毒)

オブザーバー 鵬凶商事(株) 芝生 圭吾

(敬称略)

議題は、まず前年度研修会を欠席し資格停止となっていた(株)シーアイシーが必要な研修を修了し再度登録が可能となったこと、さらに調布市の深井消毒が必要な要件を満たし登録が可能となり、この2社を加えたブロック再編が討議され、結果下表の通りとなった。

第1ブロック				第2ブロック			第3ブロック			第4ブロック				第5ブロック							
銀座化成(株)	イカリ消毒(株)	株東京三洋	株ミヤコ消毒	アベックス産業(株)	株三共消毒	シェル商事(株)	株協栄消毒	株ヨシダ消毒	株環境衛生サービスセンター	株東京企業	ジェイ・ビー・シーサービス(株)	株日本環境衛生	株中央社	株シマダ	株三幸	株三共リメイク	株シーアイシー衛生営業所	株エーデル商事	株エコア	株奥田建物管理	株深井消毒

これにより全22社となり、各社に緊急時連絡先の再登録・更新を依頼し新たな連絡表を

作成した。また平成2年度都立公園サーベイランスについて下表の通り配分された。

	衛生隊	所在地	重点サーベランス	所在地	広域サーベランス	所在地
1	株三幸	葛飾区			舎人公園	足立区
2	銀座化成(株)	世田谷区			砧公園	世田谷区
3	イカリ消毒(株)新宿営業所	渋谷区			青山霊園	港区
4	株東京企業	杉並区			神代植物公園	調布市
5	株日本環境衛生	杉並区			井の頭恩賜公園	武蔵野市
6	株エコア	立川市			小山田緑地	町田市
7	株ジェイ・ビー・シー	杉並区			薬用植物園	小平市
8	株エーデル商事	国立市			石神井公園	練馬区
9	株奥田建物管理	八王子市			染井霊園	豊島区
10	株アベックス産業	港区	日比谷公園	千代田区	八王子霊園	八王子市
11	株シマダ	文京区	戸山公園	新宿区	多摩動物公園	日野市
12	株シェル商事	中央区	葛西臨海公園	江戸川区	瑞穂農芸高校	瑞穂町
13	株中央社	中野区	駒沢オリンピック公園	世田谷区		
14	株ヨシダ消毒	練馬区	光が丘公園	練馬区		
15	株環境衛生サービスセンター	練馬区	代々木公園	渋谷区		
16	株三共消毒	品川区	猿江恩賜公園	江東区		
17	株東京三洋	世田谷区	浜離宮恩賜公園	中央区		
18	株三共リメイク	葛飾区			谷中霊園	台東区
19	株ミヤコ消毒	北区			大井ふ頭臨海公園	品川区
20	株協栄消毒	北区			お台場海浜公園	港区
22	株深井消毒	調布市			狭山公園	東村山市
23	株シーアイシー	台東区	上野恩賜公園	台東区		

※4月現在「東京都緊急事態措置」を受けて開始に至っていない。

また、東京都協会として東京港保健衛生管理運営協議会参加の機会を得、谷川委員長より説明を受けた。内容については機関紙2020年1月号VOL79に谷川氏が報告を寄せている。

さらに毎年アルカディア市ヶ谷で開催している感染症予防衛生隊5月研修会について、蚊成虫防除演習に置き換え実施すると計画をした。

同演習は、2019年9月に国立感染研と協同し、サプライヤー各社の協力を得て新宿御苑の一部において感染症予防衛生隊が動力噴霧処理区、ミラクン処理区、ULV処理区と3種類の方法で薬剤を散布し効果を試験するものであった。(詳細については機関紙2020年1月号vol79「2020年東京オリンピックへ向けたデング熱ウイルス感染蚊駆除訓練」を参照されたい。)

今回の計画は、蚊成虫駆除作業の習熟を目的とし、原局からの依頼、作業範囲の設定、必要資機材・薬剤の割り出し、各社へ動員を演習し、レスポンスの検証と合わせて実施したいと考えていた。ところが計画途中でコロナ肺炎の発生があり、公園の使用が不可能となり中止に至った。

東京オリンピックに備えての演習であったものが、そもそもオリンピックが延期となりやむを得ない事態に至った。オリンピックが2021年にあるとすれば必ずや実現したいと考えている。

研修については衛生隊規則において年2回以上の受講を求めているが、5月研修会、7月ペストコントロールフォーラムも中止のやむなきに至った。そこで当年度に限って、軽症者滞留ホテルのウイルス不活化作業への参加を

OJTとして研修に置き換えるものとした。来年度からの登録を希望される各社についても同様とし、11月に開催される日本ペストコントロール協会主催研修会の受講と合わせて2回と数えるものとした。既存の会員についてすでにいくつかの現場でOJTを完了しており、来年度参入を検討している数社から問い合わせを頂き、5月には滞留ホテルの作業現場でPPE着脱、作業の実際を経験して頂いた。

さらに「改訂版 感染症マニュアル」の発行について、それぞれの章を担当した各委員より原稿の提出をうけ、事例紹介・写真使用させて頂いた消防庁・東京都福祉保健局の許諾も得、当委員会顧問である安居院宜昭先生に最終校閲をお願いするところまで至った。さらに校正を経て当年夏には発刊に至り、会員各社にお届けできる。実践的でわかりやすいマニュアルができたと自負している。この場を借りて、執筆頂いた各委員、入念なご指導を頂いた安居院先生に改めて御礼申し上げる。

そしてコロナウイルスに対する対応については別項に詳細を報告する。

委員会作業としては、協会ホームページのトップページに「感染症予防衛生隊について」、「自分でできる新型コロナウイルス消毒方法」のバナーを設け一般向けに協会の取り組み、自分でできる消毒方法を示した他、会員専用ページには「改訂版感染症マニュアル」の抜粋、頻発する患者搬送救急車の消毒の事例報告や手順を示し、会員各位に情報を提供した。また谷川技術委員長から、東京検疫所発出の情報が多く寄せられ、これは予防衛生隊のメールネットワークによって随時隊員各社に配信

している。

3月以降、害虫相談に民間企業・学校等から多くの問い合わせが寄せられており、相談地の衛生隊登録会社を紹介、各社に対応頂いている。しかし緊急に対応しなくてはならないものや個別の会社では対応しきれない規模のものもあり、これらについては協会として受託し、所在地近くの衛生隊各社が共同して事に当たる体制を整えている。

一次受け、下請けという関係ではなく、各社が対等の立場で一つの事業を成し遂げる経験は東京では数十年前の「つくば科学万博」以来ではないだろうか。

A社から二人、B社から3人と集まりチームを編成し、一つの現場に同じ手順で取り組むものの、微妙に各社社風やフットワークに個性が現れ、大いに勉強になる。年に2回研修会

に参集し別れてしまうだけでは見えなかったものが見えてきた。これにより、連絡体制の整備、個人防護具(PPE)に関するスキル、感染症への心構え等、演習では得られない多くの成果を得た。

コロナ対応は、深夜の呼び出しも多く実はずらはずだが、正直「楽しい」とさえ感じている。

また、コロナ対応の中で委員会強化のためイカリ消毒環境殺菌事業部 杉浦氏と環境サービスセンター 内海 逸人氏の委員会参加を得た。杉浦氏は殺菌消毒のスペシャリストであり、内海氏は余人にない多くの経験を持ち合わせておられる。過酷なコロナ禍を各委員・登録各社と協同し乗り越えることで骨太な委員会・予防衛生隊の組織となると信じる。

